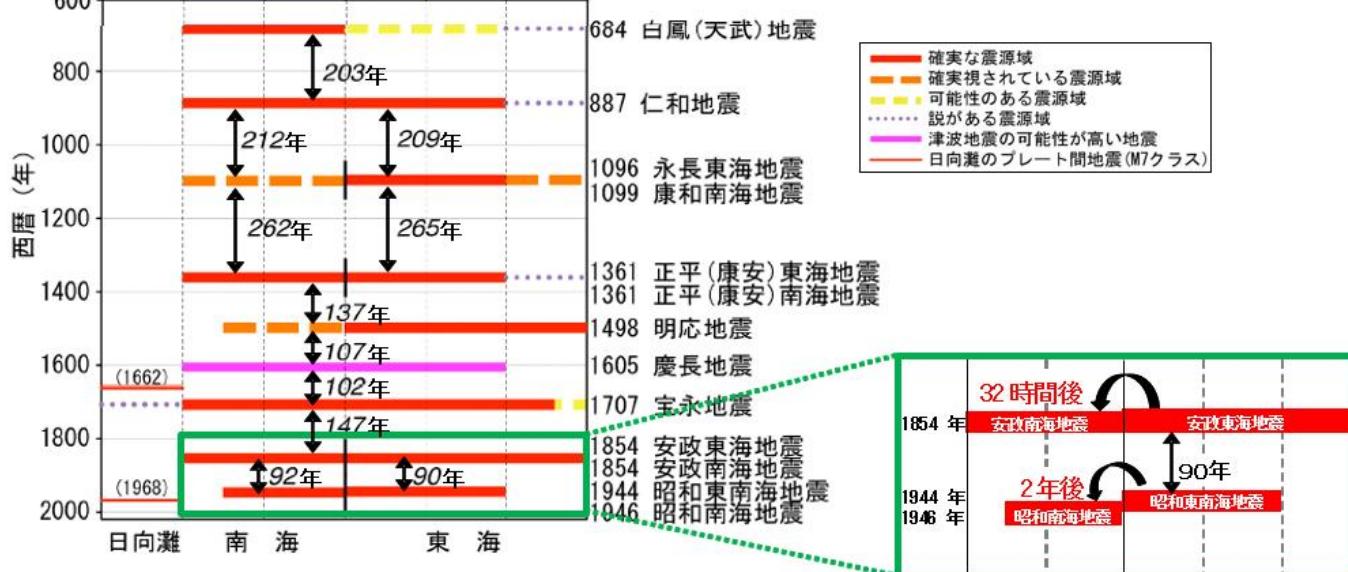
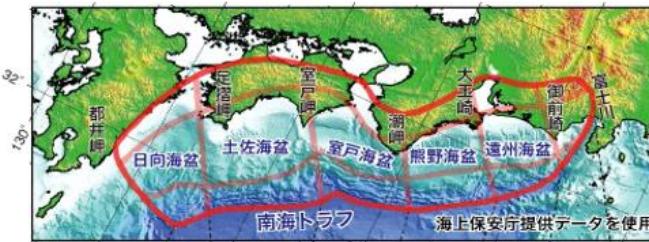
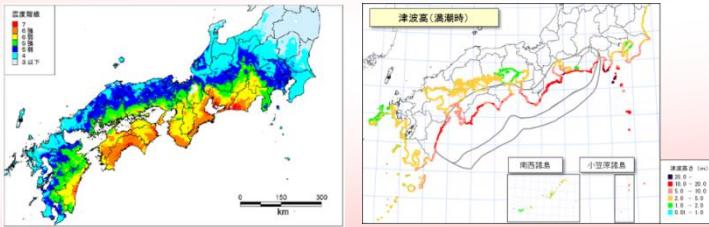


南海トラフ地震

南海トラフ地震

- 駿河湾から日向灘沖までのプレート境界を震源とする大規模地震
- 概ね100～150年間隔で繰り返し発生
- 前回の地震発生(1946年)から約80年が経過し、次の地震発生の切迫性が懸念



図は南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループの報告(平成29年9月)に追記

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ地震臨時情報

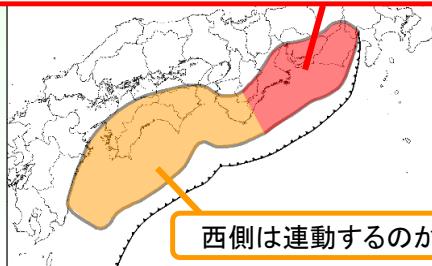
南海トラフ沿いで発生した異常な現象を観測した場合等に気象庁が発表

南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価され、南海トラフ地震臨時情報が発表される3つのケース

【M8級の地震発生】

南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生

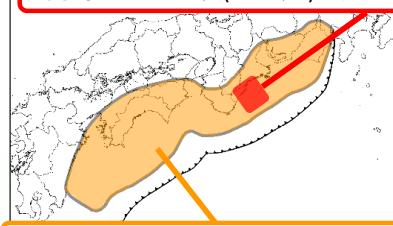


南海トラフ地震臨時情報
(巨大地震警戒)を発表

【M7級の地震発生】

南海トラフ地震の想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合 (M8.0以上のプレート境界地震の場合を除く)

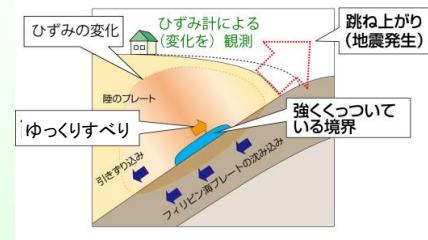
南海トラフで地震(M7クラス)が発生



南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)を発表

【ゆっくりすべり発生】

ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



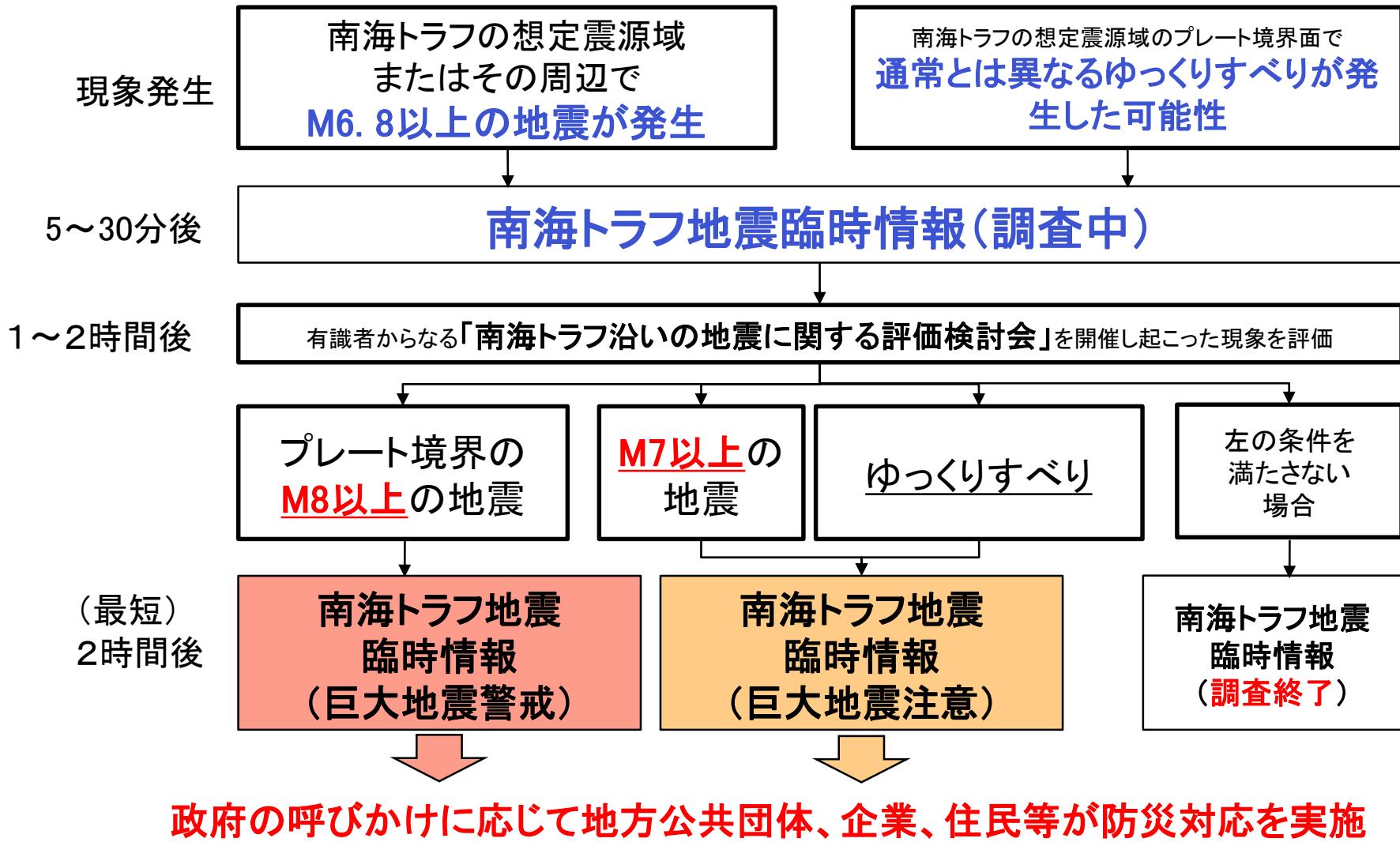
防災対応

最も警戒する期間は1週間を基本
地震発生後は明らかに避難が完了できない地域の住民は避難等
その後さらに1週間、M7級の地震発生時の防災対応を実施。

最も警戒する期間は1週間を基本
必要に応じて自主的に避難を実施することも含め日頃からの地震への備えを再確認する等、警戒レベルを上げる

日頃からの地震への備えを再確認する等、警戒レベルを上げる

南海トラフ地震臨時情報発表までの流れ



南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン【第1版】の図を修正

評価の対象となる異常な現象

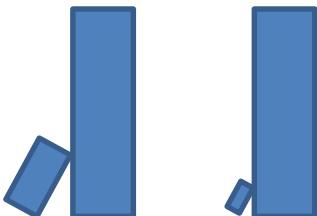
半割れ(大規模地震/被害甚大ケース)

南海トラフの想定震源域内のプレート境界において
M8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生



7日以内にM8クラス以上の
地震が発生する頻度は
10数回に1回程度



一部割れ(前震可能性地震/被害限定ケース)

南海トラフの想定震源域及びその周辺において
M7.0以上の地震が発生した場合(半割れケース
の場合を除く)

南海トラフで 地震(M7クラス)が発生



南海トラフの大規模地震の前震か?

7日以内にM8クラス以上の
地震が発生する頻度は
数百回に1回程度

ゆっくりすべり(/被害なしケース)

ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期
間にプレート境界の固着状態が明らかに変化してい
るような**通常とは異なるゆっくりすべり**が
観測された場合

